

無料映画上映会&ミニトーク 

わたしはマララ

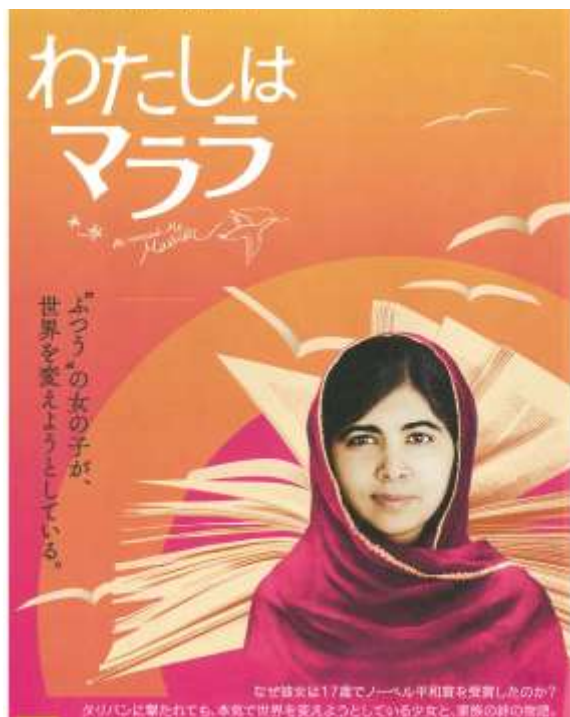
報告 

11/12(土)
13:30~15:35

今年も、「女性に対する暴力をなくす運動」週間に合わせて、映画上映会 & ミニトークやパネル展示などを実施しました。

◆女性に対する暴力をなくす運動◆

男女共同参画社会の実現のため、克服すべき重要な課題である「女性への暴力」に対する取組を強化することを目的に、「女性に対する暴力をなくす運動」が、毎年11月12日~25日までの2週間、各地方公共団体、女性団体などで実施されています。



(2015年/アメリカ/88分)

◆上映作品 わたしはマララ◆

◆内容◆

「17歳の少女がノーベル平和賞を受賞！」
2014年、世界中がそのニュースに沸き、パキスタン生まれのマララ・ユスフザイは一夜で時の人となった。タリバン制圧下で「女子にも教育を」と訴え、15歳で銃撃され瀕死の重傷を負った彼女は、奇跡的に一命をとりとめる。
過酷なりハビリに耐えて笑顔を取り戻し、再び立ち上がったマララ。
いま、世界に発信を続ける“ふつうの女の子”の知られざる物語が明らかになる――。

(C) 2016 Twentieth Century Fox Home Entertainment LLC. All Rights Reserved.



◆ミニトーク ゲスト◆

元青年海外協力隊員 今井 元子 さん

今井さんは、平成25年10月から平成27年9月まで、青年海外協力隊員として、アフリカのマラウイ共和国に派遣されていました。ミニトークでは、マラウイ共和国についての基本的な知識、学校教育や少女たちがおかれている実情など、スライドを使ってたくさんの写真とともにお話していただきました。



◆ミニトークの内容◆

マラウイ共和国について

- 人口 1636万人 面積 11.8万平方キロメートル
- 1964年 イギリスより独立。世界最貧国のひとつ。
- 電気や水道の普及率は低く、井戸での水汲みは重要な仕事
- 国民性は人懐っこく調和を大事にする



学校の現状



- 教科書や備品が不足している
- 教科書は自費だが、もっている生徒はクラスに一人程度
- 昇級試験制度だが、お金がかかるため毎年留年する子どももいる

女の子の学校に行けない理由

- 早婚の習慣がある（特に農村部）
- 女の子は、妹や弟の世話役で、子守で家にいてもらった方がよいという考えの家がある
- 家事や子育て、行商する母親たちがロールモデルであり、私も同じでいいと思う傾向にある
- 生理用ナプキンが買えず、毎月1週間程度欠席することになると、勉強についていけなくなる
- 過去にHIV感染が蔓延。両親をHIVで亡くした孤児が非常に多く、両親にかわり、子どもが働き手となる現状がある（感染率は日本0.02%・マラウイ10%）

このような要因が重なり、学年が上がるにつれて、通学する生徒の数（特に女子生徒）自体が減少していくのが現状です。ロールモデルがないことで、将来の夢や希望が描けないのではないかと思います。女子生徒のエンパワーメントなどの様々な取り組みを、国際機関や支援団体が行っていますが、道半ばです。

マラウイ人からの質問

- 日本は経済的に豊かで生活水準は高いかもしれないが、ホームレスがいるのはなぜ？
- 豊かな日本で家がないなんて… 家族や親せき、近くからは助けてあげないの？
- 学校に校舎や教科書もあり、経済的にも問題がないのに、長期に学校に行かないのはなぜ？

今井さんは、ボランティアに行ったが、逆に日本が抱える様々な問題に気づいたそうです。映画を見る皆さんが、日本は安全で良かった…ではなく、日本が抱える問題点について考えてほしい。社会を変えるのはマラウイさんのような一市民であり、この上映会がそういうことを考えるきっかけになってほしいと締めくくられました。

（※当日の今井さんのスライド資料より引用させていただきました）

◆アンケートに寄せられた声◆

若くして立ち上がり、女性の権利を訴えたマララさんに感動した（10代女性）

女性だからという根拠のない差別はあってはならないと強く思うことができた（10代女性）

当たり前になっていることが当たり前でない国が多くあると感じた（40代男性）

危険な環境にいるマララにできたのだから、平和な環境にある私たちは何でもできると思えた（20代女性）

マララさんの活動をよく知らなかったが、とても内容のよいドキュメンタリーで、観に来てよかった（30代女性）

黙ってないで声を上げること、あきらめない、いろいろと考えさせられた（60代女性）

誰かが立ちあがらないと世界を救えないと実感した。もっと女性として自信を持って生きようと思った（10代女性）

マララさんの人間形成、生き立ち、考え方についてよくわかった（40代男性）

平和な日本にいと、聞かないとわからない世界の状況、聞いていても日々薄れていくので、今回改めて世界状況について考える機会をいただいた（40代女性）

世界にはまだまだ声を出せない、あげられない女性や子どもたちがいるのが現状である。深く考えさせられる映画だった（50代女性）

女の子を育てている上で女子教育の重要性、社会での真の男女平等についてどのように教えていくべきか常々考えているので参考にしたい（40代女性）

ノーベル平和賞を受賞したマララさんは、父と共に自分の命を犠牲にしてもいいと強い意志で生きる生き様に感動した（50代男性）

わたしも小さな声を上げることがを忘れずにいたい（40代女性）

自分に何ができるのか考える機会になったという力強い感想を多くいただきました。

また今回は、マララさんのドキュメンタリー映画ということで、まつやま国際交流センター主催の「中学生チャレンジプロジェクト」に参加している中学生 19名の皆さんも来てくださいました。ご参加ありがとうございました。



◆コムズではこのようなことに取り組みました◆



コムズ1階ロビーや2階図書館にポスター等を掲示しました



壁面にツリーを掲示。来館者の方に、思いを込めてパープルリボンを作って頂き、華やかなツリーになりました



DVに関するクイズのついた、職員手づくりのパープルの小物を、希望者の方にお配りしました



内閣府男女共同参画局

検索



2階図書コーナーでは、DVに関する書籍を集めて、特設コーナーをつくりました

松山市では、松山城がパープル色にライトアップされました



内閣府男女共同参画局HPより

